

令和5年度第3回^{もり}森林の未来を考える懇談会 発言要旨

1 日 時 令和6年3月22日（金）

2 場 所 キョウワグループ・テルサホール 3階 あぶくま

3 出席委員 6人

4 議 事

- (1) 議題ア「令和5年度森林環境基金事業の実績見込みについて」について
事務局が資料5により説明し委員の意見を求める。意見等は次のとおり。

【緑川委員】

2ページの木づかい社会づくり促進事業の木造建築物等整備促進事業が皆減となっている理由は。

【林業振興課】

印刷会社等と調整していたが、対応できる印刷会社がなかったため年度内の完成ができなくなった。来年度はやり方を変えて、冊子ではなくホームページ等で掲載するやり方で実施する。

【緑川委員】

木材資源を使ってもらうためには重要なことだと思うので、うまく進めてもらいたい。

【白井委員】

9ページの県立学校における森林環境学習推進事業について、事業内容を具体的に教えてもらいたい。

【森林計画課】

各学校に要望を取り、森林に関する学習に対して補助している。例えば木質バイオマスの燃焼ストーブの作成や林業事業者の方を招いて、伐採作業や枝打ち作業等を行っている。

【根本委員】

5ページの森林情報クラウド活用推進事業でどのくらい業務の効率化が図れたかの効果の検証はされているか。

【森林計画課】

来年度から広く外部へ情報公開し実証となるためこれからになる。

【小松委員】

子ども里山教育支援事業について、体験活動 25 園となっているが目標はどのくらいだったのか。どういった感想があったか教えてもらいたい。

【森林計画課】

始まったばかりの事業のため目標というより実証に近い状態で行っている。未就学児童を対象にどういった体験ができるか、ノウハウが必要なのかなどを集めているところ。来年も続けてほしいという感想をいただいている。

(2) 議題イ「令和 6 年度森林環境基金事業の実施について」について

事務局が資料 6 により説明し委員の意見を求める。意見等は次のとおり。

【丸委員】

ふくしま植樹祭開催事業を続けていってもらいたい。地球温暖化が問題になっているので植樹に力を入れてもらいたい。他の事業でも植樹している事業はあるか。

【森林計画課】

他の事業では、大きな面積だと森林機能維持事業の再造林がある。

【緑川委員】

花粉の少ない森林づくり事業について、花粉が原因ではなく、人間の身体が過剰に反応して花粉症になっているのではないか。花粉の少ない苗に植え替えようと動いていると思うが、戦後荒廃地に一斉にスギを植えて、現在失敗したといわれている。70 年たたないと結果が出ないものに対して、一斉に花粉の少ないものに植え替えると、木が使いものにならない、成長したら花粉が着いたなどが起きる可能性がある。林業経営を生業としている人に影響を与える可能性もあるので、慎重に進めてもらいたい。

【森林整備課】

苗木が 50 年後、材がどういった形になるのかを想定して、根拠データをもった花粉の少ない苗木を使用していく。今現在、最大にできうることで対応していきたい。

【原田委員】

植替えの時期が来たところに花粉の少ない苗木を植栽するということか。

【森林整備課】

森林所有者に伐採したときは、再造林するようお願いをしている。その時に花粉の少ない苗木を使ってほしいと働きかけをしていく。

【小松委員】

森林から学ぶエコ活動は令和5年度で終了か。

【環境共生課】

森林環境基金を活用した事業は終了となるが、環境共生課の事業で子どもたちを対象とした意識醸成の事業があり、そちらで子どもたちに学んでいく機会を作りたいと考えている。

【白井委員】

森林資源の活用による持続可能な社会づくりの項目で、前年度と比べて令和6年度は事業減額になっている。減額の理由はなにか。

【林業振興課】

木づかい社会づくり促進事業が一番減額になっている。令和5年度の実績を参考に予算を計上したところ減額となった。

【原田委員】

実績をもとにということだったが、要望が減ってきたということか。

【林業振興課】

年度による。公募型の事業では1件あたりの上限を決めて募集しており、上限事業費までいかない応募だった。応募自体は、例年7～8件あり、その半分くらいを採択している。

【丸委員】

地球が危機的な状況になっていて、森林資源の活用による持続可能な社会づくりにある事業は、一番大事な事業だと思う。すべての事業すべて減額になっているので、

工夫して力を入れて取り組んでもらいたい。既にある事業以外の事業も考えて、この項目に力を入れて行ってほしい。

【林業振興課】

森林環境基金事業以外の国費の事業があり、公共施設の木造化の推進などを行い、木材利用を拡大する取組みや木材搬出する際の機械の導入支援などを実施している。県内の素材生産量は、毎年増加し、現在は震災前の水準を上回っている。

【根本委員】

福島県森林環境税に関する声を聴く事業のタウンミーティングはどのような形で開催するのか決まっているのか。

【森林計画課】

県内8カ所ある農林事務所を通じて実施していく。幅広い方に広報していき、御意見をいただきながら行っていきたい。場所や日程はこれから決めていく。

【根本委員】

林業関係者だけでなく、基金で実施している子ども向けイベント、高校生のところに出向いて行っている事業などの場で意見を聞くことをしていった方が良いと思う。意見の集め方は検討してほしい。

【森林計画課】

子ども向けイベントや高校生を対象にした事業でも、関係する方に声をかけて意見を頂戴し、次期の森林環境税を考えていきたい。

【原田委員】

何人くらいの規模で実施するのか。広報の仕方は広報紙で呼びかけるのか。

【森林計画課】

広報誌等も活用する。農林事務所からの声かけやホームページ等にも掲載し、幅広い層に集まっていただけるように広報していきたい。

【原田委員】

8回で何人くらいに集ってもらえるのか。

【森林計画課】

400人～800人の方から声を聴きたいと考えている。

【根本委員】

タウンミーティングの際の資料は、紙ベースの文字だけの資料となるのか。画像を使用して視覚的に伝わる資料にした方がいい。アンケート集計もデジタルツールを使うなど工夫された方がいい。

【森林計画課】

写真等を多用して資料作成していきたい。また、アンケートのやり方も外部委託を検討しており、ネットを活用するなど御意見を参考にしながら行っていきたい。

(2) その他

特になし。